

まなざし

令和2年度

立山町立釜ヶ淵小学校

第2学年 学年だより

5月号

3つも見つけたよ！宝物を

始業式後の3日間には、きらきら光る宝物に出会うことができると言われています。もちろん、子供たちのすてきな姿という宝物です。このような大変な世の中なのに、2年生の子供たちは、楽しみを見付け出したり自分らしく伸びようとしていたりして輝いているのです。そんなすてきな姿に3つも出会えて、幸せな気持ちでいっぱいになりました。

◎ 桜の花の精たち

入学式の後、グラウンドの桜の木をバックに、学級の集合写真を撮りました。子供たちは、思い思いのポーズをとって、うれしそうな笑顔でした。男子は、特徴のはっきりしたポーズで、女子はちょっとかわいさをアピールしたポーズで写りました。



その後、自分たちのやりたい遊びを始めました。雲梯で遊ぶ子、鉄棒をする子、鬼ごっこをする子など。子供たちは、思いっきり体を動かしました。



中でも印象に残ったのは、桜の木に登って遊ぶ子供たちでした。何人かで話をしながら、交代で登る様子は、なかよく自然に親しむ桜の精たちを見ているようで、ほほえましく感じました。

◎ お花見しようよ！

授業が終わって、ほっと一息つく時間。

暖かな春の日差しに誘われたのか、Sさんが私の横に来て、「先生、お花見してもいい？」と聞いてきました。「してもいいよ」と答えると、それを聞いていた子供たちも「やったー」と叫びながら、教室の前のコンクリートのところに出てきました。そして、水筒のお茶を飲みながら、自分たちのチューリップやヒヤシンスを見ながら、お花見を始めました。



「ぼくの花、きれいに咲いたな」「Mさんの髪の毛は、どうしてそんなに長いのか？」「お母さんが、長いのが好きだから」などと話をしながら、うららかな一時を楽しんでいました。Sさんが春を楽しみたいという思いを提案してくれたことで、春のもつやさしい季節感をみんなで味わうことができました。

◎ 言わずにはおられなかったよ

国語科「だって だつての おばあさん」の授業のことです。99歳になる一人暮らしのおばあさんが、1匹のねこと住んでいました。話の途中で、自分の作ったケーキで自分の誕生日をお祝いする場面が出てきました。

それまで、物語の筋を追いながら、黒板の方を向いて（コロナ対策のため）おばあさんの気持ちを教師や友達に聞いてもらっていた子供たち。

何を思ったのか、Iさんが、はっきりとした口調で「変だ」と言い出しました。多くの子供たちは、Iさんが何を言いたいのか分からなかったのでしょうか。「何が変なの？」と口々に言い出しました。それまで、静かに流れていた教室の雰囲気は、一変してざわつき始めました。そして、だれがどんな考えを話すのか、相手の話に興味をもって聞き始めました。

Iさん：だって、自分で自分の誕生日をお祝いするなんて、変だよ

Oさん：そんなん、いいんじゃない。だって、おばあさんがうれしくなれるよ。

Nさん：ぼくも、いいと思います。だって、おばあさんがうれしくなれると思うからです。どうして、変なんですか？

Iさん：だって、誕生日はね。他の人が、自分をお祝いしてくれるからうれしんだよ。自分で自分をお祝いするのは変だと思う。

Tさん：私は、自分で自分をお祝いしてもいいと思います。だって、自分がうれしくなれるなら、それでいいんじゃないですか。

Sさん：それに、ねこも喜んでいし、ケーキを楽しみにしている。

Mさん：おばあさんとねこの二人しかいないんだよ。

Aさん：一人でも多い方が楽しいと思います。

Nさん：Iさんに質問。誕生日をお祝いしたらダメなのですか？

Iさん：そうじゃなくて、ぼくの誕生日、家の人祝ってくれたらうれしいけれど、自分一人でお祝いしてもうれしくないから変だと思う。

Sさん：そしたら、一人暮らしの人、かわいそうになるんじゃない。

普通に考えるなら、Iさんの言うように、自分の誕生日は相手が祝ってくれるというのが、一般的です。もし自分で自分をお祝いすると想像したとき、うれしさは半減すると思ったのでしょうか。

一方、多くの子供たちは、自分で自分を祝っても、少しでもうれしい気持ちがあればいいのではないか。ましてや、一人暮らしのおばあさんにとって、それしか祝う選択肢は残されていないのだから一人で祝ってもいいのではとおばあさんの気持ちに寄り添って考えたのでしょうか。自分の暮らしを振り返ってみて思い描いた感情や登場人物に寄り添った感情を大切に、互いの読みを交流し、自分の見方・考え方を発展させようとするすてきな時間でした。



授業が終わった後、子供たちの目は、とてもきらきら輝いていました。思う存分、友達と自分の考えを交流することができたことに満足したからでしょうか。

マスクを着けたり、できるだけ前を向いたりと約束事の多いときですが、子供たちの学び合いたい気持ちがいっぱい2年教室。これからも、友達と関わり合おうとする構えを大切に、自分の力を思いきり出し合うことのできる、すてきな居場所であり続けてほしいと思いました。